



# なぜ、いま、ビーガン(完全菜食)なのか?

—ディカプリオやビル・ゲイツがビーガンビジネスに投資—

# 21

世紀の  
食ライフスタイル・

# ビーガン



日本ベジタリアン協会 代表理事  
垣本 充 (かきもと みつる)  
三育学院大学特命教授・歯学博士  
国際ベジタリアン連合 (IVU) 元学術理事

昨年まで『月刊つぶつぶ』の連載「ベジタリアンを知る」を執筆しましたが、季刊誌が発行されることになり、つづいて「21世紀の食ライフスタイル・ビーガン」のタイトルで連載させていただきます。

ビーガンは、肉や魚、卵を食べないだけでなく、牛乳やチーズやヨーグルトなどの乳製品など動物性のもは一切摂らない純菜食(者)、完全菜食(者)などと訳されているベジタリアンのカテゴリーの一つです。ピヨンセヤアリアナ・グランデなどのセレブ(リテイ)がビーガンだという情報がメディアで盛んに流されています。

さて、なぜ、いま、ビーガンなのか?最新のトピックスを交えてホットな情報を皆様にお届けしたいと思います。

我が国のベジタリアン学問領域のリーダーである日本ベジタリアン学会の年次総会が2017年11月26日に東京で開催されました。この第17回日本ベジタリアン学会大会の研究発表で、大阪市立大学大学院の橋本晃一さんらの研究グループが、首都圏・京阪神の大学院・大学生(短期大学を含む)126名の調査で、ビーガン人口の割合が男女とも約4%となり、2003年に日本ベジタリアン学会誌『Vegetarian Research』で公表された大学生(短期大学を含む)533名の調査でのビー

ガン人口0.2%が、この14年で20倍も増加したという結果を公表しました。

これらの傾向は、国際的にも見受けられます。すでに多くのビーガンが存在するベジタリアン先進国の英国では2006年から2015年の10年間でビーガン人口は3.5倍に増え、約54万人に達するとビーガン協会が調査結果を公表しました。また、ヨーロッパで決してベジ先進国とは言えないイタリアでは、今年2017年、イタリア人のビーガン人口は前年比3倍、全人口の3%になったという報告があります。これは前述の日本のビーガン人口の年平均増加率を上回る値と言えます。

このようなビーガンが急増する原因にはどのようなことが考えられるのでしょうか?

それらの問題を考えるために、セレブによるビーガンビジネスへの投資について幾つかのトピックスをご紹介します。

プロテニスNo.1プレーヤーのノバク・ジョコビッチは自身のインスタグラムでビーガン料理の写真を紹介していましたが、体に優しい菜食を普及させるため、モノコにビーガンレストランを開店しました。

ムービースターのレオナルド・ディカプリオは「動物肉から植物ベースの肉に移行することは、気候への影響を減らすための最も重要な対策の一つです。」とのコメントを発表して、ビ

ーガンブランドの「ビヨンド・ビーフ」に巨額な投資を行いました。

IT業界では、マイクロソフト会長のビル・ゲイツとツイッターを創設したエヴァン・ウィリアムズの共同出資会社が、本物の畜肉と区別がつかないくらい美味しいベジ(植物性)ミートを開発したと、欧米で大きな話題になっています。

ビル・ゲイツのブログ『ゲイツノート』に記載された食への提言「フューチャー・オブ・フード(未来食品)」(和訳要約)で、彼は「2050年までに世界の人口は90億人以上に増加し、肉に対する食欲もそれと共に成長します。肉の需要は2000年から2050年に倍増するでしょう。しかし、肉を育てるには大量の土地と水を必要とし、環境に大きな影響を与えます。簡単に言えば、90億人の肉を生産する方法はありません。しかし、誰もがベジタリアンになるように求めることはできません。だから私たちは資源を枯渇させることなく肉を生産するためにもっと多くのオプション(選択肢)が必要です。いくつかのエキサイティングな新しい企業が、鶏肉、牛ミンチ肉、さらには卵まで、植物ベースの代替品をつくり出しています。これらは持続可能に生産される食料です。」と述べています。

時代の先端を行くセレブたちがビーガン食に投資する動機は、健康志向や食料・環境問題など、現代社会が抱える多様な問題と関係していると思います。

次号から、健康や環境などの問題にフォーカスして、「なぜ、いま、ビーガンなのか?」このようなビーガンが急増する原因にはどのようなことが考えられるのか?」を追及していきます。

## NPO 法人 日本ベジタリアン協会



日本ベジタリアン協会は、1993年4月設立2001年2月に特定非営利活動法人(NPO法人)の認証を受けた非営利団体です。「人と地球の健康を考える」をテーマに菜食とそれに関連した健康、栄養、倫理、生命の尊厳、アニマルライツ、地球環境保全、発展途上国の飢餓などの問題に関する啓発や奉仕を目的とし、菜食に関心のある人々に必要な知識や実践方法を広め、共有していくためのネットワークづくりを行っています。

日本ベジタリアン協会事務局 〒532-0003 大阪市淀川区宮原1-19-23-1317 TEL:06-6868-9860 <http://www.jpvx.org>